

## 道德教育全国調査の実施（2020.3）と結果分析（1） —統計的分析—

- 押谷由夫(武庫川女子大学大学院・教授)
- 木崎ちのぶ(武庫川女子大学大学院・院生)
- 谷山優子(武庫川女子大学大学院・院生)
- 矢作信行(武庫川女子大学大学院・院生)
- 齋藤道子(武庫川女子大学大学院・院生)
- 小山久子（大阪芸術大学・特任教授）
- 醍醐身奈（目白大学・専任講師）

### 1 研究の動機

文部科学省は、新教育課程に先駆け、道德教育の抜本的改善・充実に取り組んでいる。その中核に「特別の教科 道德」の設置があり、小学校では2018年度から、中学校では2019年度から全面实施されている。新しい道德教育への移行期にあるこの時期に、学校現場の教師の意見や具体的取組について調査し、教師がその意義を理解し、各学校が主体的に取り組み、意図される効果を上げられるようにするための対策を行うことが求められる。

### 2 本研究の目的と方法

本研究は、道德教育の変革期にあるこの3年間の学校現場の対応の実態を明らかにし、学校現場の教職員がより主体的、意欲的に道德教育改善・充実に取り組んでいただけるようにするための提案を行うことを目的とする。

本研究チームでは、第1次全国調査を、「特別の教科 道德」の設置が決定した翌年度の2018年3月に行い、第2次全国調査を、小学校が全面实施された年度の2019年3月に行い、第3次調査を、小学校、中学校ともに全面实施された年度の2020年3月に実施した。今回は第3次の調査の結果を明らかにする。

なお、発表は、結果分析（1）と（2）に分けて行う。まず、結果分析（1）として統計的分析について発表する。

### 3 調査の方法

調査対象校は、第1次、第2次、第3次調査とも同一の学校とした。調査対象校の選定は『全国学校総覧 2017年度』（原書房）より、全国47都道府県の全部の小学校・中学校から、およそ1割の学校を無作為に抽出し、アンケート用紙を送付するという方法を取った。発送学校数は、年度ごとに統廃合校があるため若干の変更がある。第1次調査では、3336校、第2次調査では3331校であった。今回の第3次調査では、3325校であり、回収学校数は1027校。回収率は、30.9%であった。

学校種別および回答者の職別、地域別のサンプルは表の通りである。

学校種

職階

全体	小学校	中学校	小、中一貫校 (義務教育学)	全体	校長	副校長 (教頭)	師 (道徳主任)	道徳教育推進教 主任	教務主任、研究	それら以外
1027	644	362	19	1027	110	158	669	63		27
100	62.7	35.2	1.9	100	10.7	15.4	65.1	6.1		2.6

学校の地域

全体	北海道	東北	関東	甲信越	北陸	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	不明
1027	65	126	225	63	30	83	158	93	57	109	13	5
100	6.3	12.3	21.9	6.1	2.9	8.1	15.4	9.1	5.6	10.6	1.3	0.5

4 調査の内容

次のような内容について尋ねている。

- 学校教育全体で取り組む道徳教育についてお聞きします
- 「特別の教科 道徳」の年間指導計画についてお聞きします
  - 1 「特別の教科 道徳」になり、年間指導計画に書かれていることが変わりましたか
  - 2 年間指導計画の中に、道徳の教科書の教材以外教材をどの程度入れていますか
  - 3 年間指導計画の中に、道徳の授業全体を振り返るような時間を設けていますか
  - 4 重点的に指導する内容項目について、効果的な指導ができましたか
  - 5 2019年度、どの程度年間指導計画の見直しを行いましたか
  - 6 2019年度、学校全体で道徳の授業に取り組もうとする体制は機能しましたか
- 「特別の教科 道徳」の授業についてお聞きします
  - 1 貴校の先生方を見ていて、教科書を使うことで道徳の授業はしやすくなりましたか
  - 2 次のことについて教科書をどの程度活用しましたか。
  - 3 貴校の道徳授業を全体的に見て、よくなってきていると感じますか。
  - 4 貴校では、全体的に見て、次のようなことにどの程度効果を感じていますか
  - 5 独自に持たせた道徳ノートや道徳ファイルは効果的でしたか
  - 6 現在使っておられる教科書について、どのような意見をおもちでしょうか。
  - 7 「特別の教科 道徳」の評価について、2019年度どのようになされましたか
  - 8 2019年度、学校全体で道徳授業の研修をどの程度行いましたか
  - 9 各学年や学年段階で、先生方で道徳授業の話し合いはどの程度行われていますか
- ご回答頂いている先生から見て次の事柄についてどのように把握されていますか
- 次のような意見に対してご回答頂いている先生は、どのように思われるでしょうか
- 要望、ご意見、などがありましたら、回答用紙の方に自由にご記入ください

等

## 5 調査の結果と分析

### 1. 各校の道徳教育への対応

#### (1) 道徳教育推進教師の特徴

表 1

道徳教育推進教師（道徳主任）はどのような先生がなられていますか

	全体	校種別		学校規模		地域別					
		小学校	中学校	200人 以下	701人 以上	北海道・ 東北	関東・ 甲信越	北陸・ 中部	近畿	中国・ 四国	九州・ 沖縄
ベテランの先生	317 32%	219 34%	98 28%	89 38%	26 21%	72 38%	79 28%	39 35%	45 29%	51 35%	33 28%
中堅の先生	517 52%	314 49%	203 57%	103 44%	74 58%	100 53%	156 55%	54 48%	84 54%	68 46%	61 51%
若手の先生	162 16%	107 17%	55 15%	41 18%	27 21%	17 9%	51 18%	19 17%	27 17%	29 20%	26 22%

道徳推進教師は、どのような教師が割り当てられているかについて、「ベテラン」と「中堅」の教師が、84%を占めている。2017年度・2018年度と同様の結果である。「ベテラン」と「中堅」については、地域別「北海道・東北」が91%で一番高い。「若手」の教師は、「九州・沖縄」が22%で高い。校種別、学校規模、地域別を比較しても、「ベテラン」3割、「中堅」5割、「若手」2割のパターンが同じである。

#### (2) 道徳教育を重視している学校の割合

表 2

学校経営において道徳教育が重視されていますか

	全体	校種別		学校規模		地域別					
		小学校	中学校	200人 以下	701人 以上	北海道・ 東北	関東・ 甲信越	北陸・ 中部	近畿	中国・ 四国	九州・ 沖縄
重視されている	351 35%	246 38%	105 29%	93 40%	46 36%	69 36%	92 32%	41 36%	46 30%	57 38%	49 40%
まあまあ重視されている	566 57%	346 54%	220 61%	123 52%	68 53%	111 58%	162 56%	61 54%	94 60%	80 53%	62 51%
あまり重視されていない	77 8%	45 7%	32 9%	17 7%	14 11%	10 5%	30 11%	11 10%	14 9%	11 7%	10 8%
重視されていない	8 1%	5 1%	3 1%	2 1%	1 1%	0 0%	3 1%	0 0%	2 1%	2 1%	1 1%

学校経営において、道徳教育が「重視されている」「まあまあ重視されている」と9割の学校が回答している。この傾向は、2017年度・2018年度の結果と同じである。

### (3) 国・公・私立別学校数

表 3

国・公・私立別

	全体	校種別		学校規模		地域別					
		小学校	中学校	200人 以下	701人 以上	北海道・ 東北	関東・ 甲信越	北陸・ 中部	近畿	中国・ 四国	九州・ 沖縄
国立	54 5%	27 4%	27 8%	2 1%	7 5%	10 5%	14 5%	4 4%	10 6%	13 9%	5 4%
公立	886 89%	591 92%	295 82%	220 94%	116 89%	178 94%	248 86%	103 91%	125 80%	128 87%	114 93%
私立	60 6%	23 4%	37 10%	12 5%	7 5%	2 1%	25 9%	6 5%	22 14%	7 5%	3 3%

回答した学校は、小学校が 641 校で 64%、中学校が 359 校で 36%である。学校の国・公・私立別については、「国立」5%、「公立」89%、「私立」6%である。中学校では、「公立」が 10 割小学校より低く、「国立」と「私立」の回答がその分多い。

## 2. 全体計画について

### (1) 道徳教育を推進させるための組織

表 4

学校全体で道徳教育を推進するための組織を作っていますか

	全体	校種別		学校規模		地域別					
		小学校	中学校	200人 以下	701人 以上	北海道・ 東北	関東・ 甲信越	北陸・ 中部	近畿	中国・ 四国	九州・ 沖縄
前から作っている	566 59%	348 57%	218 63%	102 45%	90 73%	81 46%	194 71%	53 48%	108 70%	73 50%	67 59%
今年度作った	33 3%	14 2%	19 6%	7 3%	2 2%	6 3%	10 4%	1 1%	7 5%	4 3%	5 4%
作っていない	359 38%	249 41%	110 32%	118 52%	31 25%	89 51%	71 26%	56 51%	39 25%	68 47%	42 37%

道徳教育推進のための組織を作っている学校は、62%である。大規模校（「701名以上」）の組織作りの方が進んでおり、小規模校（「200人以下」）との差は、27 割となっている。小規模校では「作っていない」が 5 割であり、学校全体で取り組んでいる割合が高いと考えられる。地域別に見ると、「北海道・東北」「北陸・中部」「中国・四国」の組織づくりが低いのは、小規模校が多いことが原因と考えられる。

## (2) 全体計画に書かれている内容の達成度

表 5

全体計画に書かれていることがどの程度達成されていると評価できるでしょうか

	回 答														
	だいたい達成されている			まあまあ達成されている			あまり達成されていない			見直しが必要である			全体計画に示していない		
	全体	小学校	中学校	全体	小学校	中学校	全体	小学校	中学校	全体	小学校	中学校	全体	小学校	中学校
1. 「特別の教科 道徳」の指導	393 39%	255 40%	138 39%	530 53%	347 54%	183 51%	62 6%	32 5%	30 8%	10 1%	5 1%	5 1%	3 0%	1 0%	2 1%
2. 各学年の道徳教育	335 34%	210 33%	125 35%	589 59%	391 61%	198 55%	56 6%	28 4%	28 8%	16 2%	10 2%	6 2%	4 0%	2 0%	2 1%
3. 各学級の道徳教育	311 31%	197 31%	114 32%	596 60%	395 62%	201 56%	60 6%	32 5%	28 8%	13 1%	9 1%	4 1%	19 2%	7 1%	12 3%
4. 各教科の特質に応じた道徳教育	115 12%	80 13%	35 10%	537 54%	374 59%	163 46%	300 30%	163 26%	137 38%	37 4%	17 3%	20 6%	8 1%	5 1%	3 1%
5. 特別活動における道徳教育	128 13%	93 15%	35 10%	606 61%	396 62%	210 59%	212 21%	121 19%	91 25%	47 5%	27 4%	20 6%	5 1%	3 1%	2 1%
6. 総合的な学習の時間における道徳教育	96 10%	67 11%	29 8%	545 55%	355 56%	190 53%	282 28%	173 27%	109 30%	59 6%	37 6%	22 6%	15 2%	7 1%	8 2%
7. 日常生活における道徳教育	229 23%	159 25%	70 20%	619 62%	402 63%	217 61%	118 12%	63 10%	55 15%	17 2%	9 1%	8 2%	13 1%	5 1%	8 2%
8. 家庭との連携による道徳教育	84 8%	69 11%	15 4%	446 45%	325 51%	121 34%	358 36%	194 30%	164 46%	78 8%	41 6%	37 10%	31 3%	10 2%	21 6%
9. 地域との連携による道徳教育	72 7%	57 9%	15 4%	382 38%	278 44%	104 29%	406 41%	238 37%	168 47%	93 9%	49 8%	44 12%	44 4%	17 3%	27 8%
10. 重点目標の指導	225 23%	156 24%	69 19%	594 60%	385 60%	209 58%	132 13%	74 12%	58 16%	37 4%	21 3%	16 5%	9 1%	3 1%	6 2%

全体計画で示している内容について、教育活動のなかでどの程度達成されていると評価できるかを尋ねた。「だいたい達成されている」「まあまあ達成されている」と回答した学校が、45%～93%となっており、項目間で開きがある。達成の評価が高い項目は、上位から「各学年の道徳教育」93%、「各学級の道徳教育」91%、「『特別の教科 道徳』の指導」90%である。反対に、「あまり達成されていない」「見直しが必要である」の回答が多いのは、「地域との連携による道徳教育」50%、「家庭との連携による道徳教育」44%である。達成の評価が低い2項目の校種別比較では、中学校の方がいずれも高く、達成できていないと答えている。2018年度結果との比較では、全体に、「あまり達成されていない」と評価した学校が増えている。期待値が上がっているともとらえられる。

## (3) 全体計画の見直し（教科化以降）

表 6

「特別の教科 道徳」が実施されて、全体計画の見直しをしましたか

	全体	校種別		学校規模			
		小学校	中学校	200人以下	201人～500人	501人～700人	701人以上
行っていない	57 6%	31 5%	26 7%	13 6%	29 6%	12 6%	4 3%
少し行った	203 21%	117 19%	86 24%	45 19%	95 21%	39 21%	27 22%
ある程度行った	322 33%	215 34%	107 30%	76 33%	150 33%	58 31%	45 36%
だいぶん行った	132 13%	84 13%	48 14%	26 11%	63 14%	26 14%	21 17%
全体的に見直した	274 28%	185 29%	89 25%	74 32%	120 26%	54 29%	28 22%

「特別の教科 道徳」が2018年に小学校で、2019年に中学校で全面実施となった。本調査では2019年度の実態について、見直しの程度を尋ねた。見直しを「行っていない」のは6%に過ぎず、反対に「全体的に見直した」のは28%であった。程度の差こそあれ、9割の学校が見直しを行った。新しい道徳教育に合わせて、改善を図ろうとしている現場の様子が見てとれる。

#### (4) 各教科等における道徳教育について

表7

道徳の指導内容項目と関連づけたものを別葉として作成していますか

	全体	校種別		学校規模			
		小学校	中学校	200人以下	201人～500人	501人～700人	701人以上
作成しており、よく活用している	135 14%	105 17%	30 9%	37 16%	62 14%	18 10%	18 14%
作成しており、ときどき活用している	373 38%	266 42%	107 31%	80 35%	171 38%	72 38%	55 44%
作成しているが、あまり活用していない	266 27%	156 25%	110 31%	68 29%	123 27%	51 27%	30 24%
作成しているが、ほとんど活用していない	56 6%	34 5%	22 6%	13 6%	26 6%	11 6%	6 5%
作成していない	155 16%	73 12%	82 23%	33 14%	74 16%	37 20%	17 14%

別葉を作成している学校は、84%である。「作成していない」が16%で、小学校より中学校の方が11%高い。「作成しているが、あまり活用していない」「作成しているが、ほとんど活用していない」が33%となっている。別葉の作成が定着してきている一方で、活用しきれていない学校が3割ある。

### 3. 年間指導計画について

#### (1) 年間指導計画に書いている内容の変化（教科化前との比較）

表8

「特別の教科 道徳」になり、年間指導計画に書かれていることが変わりましたか

	回 答											
	簡略になった			変わらない			詳しくした			以前も今も書いていない		
	全体	小学校	中学校	全体	小学校	中学校	全体	小学校	中学校	全体	小学校	中学校
1. 基本的発問	79 8%	48 8%	31 9%	431 45%	279 45%	152 44%	269 28%	167 27%	102 30%	186 19%	128 21%	58 17%
2. 板書計画	57 6%	31 5%	26 8%	366 37%	235 37%	131 38%	185 19%	116 18%	69 20%	372 38%	250 40%	122 35%
3. 事前の指導に関すること	46 5%	26 4%	20 6%	454 47%	304 49%	150 44%	186 19%	113 18%	73 21%	286 29%	184 29%	102 30%
4. 事後の指導に関すること	41 4%	26 4%	15 4%	449 46%	300 48%	149 43%	212 22%	126 20%	86 25%	269 28%	172 28%	97 28%
5. 家庭との連携に関すること	24 3%	16 3%	8 2%	546 57%	346 56%	200 59%	150 16%	113 18%	37 11%	241 25%	145 23%	96 28%
6. 地域との連携に関すること	29 3%	20 3%	9 3%	567 59%	359 58%	208 61%	131 14%	99 16%	32 9%	234 24%	140 23%	94 27%
7. 各教科等との関連について	37 4%	25 4%	12 4%	510 55%	318 53%	192 58%	304 33%	216 36%	88 26%	85 9%	43 7%	42 13%

年間指導計画に書いている内容ごとに、教科化後の変化について尋ねた。「詳しくした」内容は、上位から、「各教科等との関連について」33%、「基本的発問」28%、「事後の指導に関すること」22%となっている。そのうち「各教科等との関連について」は、校種別で差があり、小学校の方が10%多く「詳しくした」と回答している。「板書計画」について「以前も今も書いていない」学校が38%だが、

逆に年間指導計画に書いているのが 62%ということになる。「板書計画」を年間指導計画に書いているのは、2017 年度（24%）・2018 年度（58%）の結果と比較すると、着実に上昇している。

## （２）道徳の教科書以外の教材について（補助教材としても含めて）

表 9

年間指導計画の中に、道徳の教科書の教材以外で、各学年平均して、どの程度入れていますか

	回 答											
	入れていない			1～2教材入れている			3～5教材入れている			6教材以上入れている		
	全体	小学校	中学校	全体	小学校	中学校	全体	小学校	中学校	全体	小学校	中学校
1. 文部科学省発行の『私たちの道徳』に掲載されている教材	539 54%	375 59%	164 46%	308 31%	171 27%	137 39%	53 5%	29 5%	24 7%	90 9%	59 9%	31 9%
2. 文部科学省で以前に開発された読み物教材	716 72%	477 75%	239 67%	236 24%	136 21%	100 28%	26 3%	17 3%	9 3%	13 1%	6 1%	7 2%
3. 都道府県や市町村などで開発された道徳教材	451 45%	260 41%	191 54%	388 39%	267 42%	121 34%	118 12%	86 14%	32 9%	36 4%	24 4%	12 3%
4. 民間が発行する副読本の教材	679 69%	468 74%	211 59%	195 20%	97 15%	98 28%	35 4%	16 3%	19 5%	77 8%	49 8%	28 8%
5. 学校が独自に開発した教材	738 75%	533 85%	205 58%	194 20%	78 12%	116 33%	39 4%	12 2%	27 8%	15 2%	7 1%	8 2%
6. その他の教材	589 88%	392 91%	197 83%	55 8%	26 6%	29 12%	12 2%	6 1%	6 3%	13 2%	8 2%	5 2%

道徳の教科書の教材以外で、各項目の教材をどの程度入れているか（補助教材としても含めて）について、4段階で尋ねた。小学校、中学校ともに教科書が使われているが、他の教材も使われていることがわかる。『私たちの道徳』3割の学校で「1～2教材入れている」と答えており、「6教材以上入れている」学校も1割近くある。また、「都道府県や市町村などで開発された道徳教材」も「1～2教材入れている」学校が39%、「3～5教材入れている」学校が12%となっている。なお、「学校が独自に開発した教材」は「1～2教材入れている」学校が20%、「3～5教材入れている」学校が4%となっており、どちらも中学校が3倍以上の割合になっている。道徳の授業は、身近な教材を活用することも大切である。各学校の努力をうかがうことができる。今後さらに、「学校が独自に開発した教材」の開発・活用が求められる。

## （３）一定期間の道徳授業を振り返る授業の効果

表 10

年間指導計画の中に、道徳の授業全体を振り返るような時間を設けた場合の効果はどうか

	全体	校種別	
		小学校	中学校
効果的であった	146 15%	61 10%	85 24%
ある程度効果的であった	339 34%	206 32%	133 37%
あまり効果的ではなかった	28 3%	16 3%	12 3%
設けていない	482 48%	355 56%	127 36%

教科化された道徳の授業においては、各時間の学習内容が積み重なって効果を上げていく。そのためには、一定期間の道徳授業を振り返る取り組みが必要である。そのような時間を設けているか、設けている場合はその効果はどうかを尋ねた。結果は、「設けていない」学校が48%。小学校が56%に対し、中学校は36%と大きな開きがある。教科化された意識が中学校のほうが高いのかもしれない。2018



年度調査と比較すると、全体ではほとんど変わらないが、中学校で16%減少になっている。

「時間を設けた」学校のうち、「効果的であった」と答えた学校が約3割、「ある程度効果的であった」と答えた学校が7割近くある（表10では設けていない学校も含めて割合を出しているため、それぞれを2倍すれば「設けている」学校の評価となる）。中学校のほうが、「効果的であった」と答えた学校が小学校の倍近くの割合になっている。

#### （４）重点的に指導した内容の効果

表 11

重点的に指導する内容項目について、効果的な指導ができましたか

	全体	校種別		学校規模	
		小学校	中学校	200人 以下	701人 以上
計画的に取組み効果も感じられた	457 46%	304 48%	153 43%	107 46%	61 48%
計画的に取り組んだが、あまり効果的はなかった	204 21%	131 21%	73 20%	48 21%	30 24%
計画的には取り組めなかったが、効果的だった	178 18%	110 17%	68 19%	47 20%	17 13%
計画的に取り組めなかったし効果も感じられなかった	91 9%	51 8%	40 11%	19 8%	12 9%
行っていない	65 7%	42 7%	23 6%	13 6%	7 6%

重点的に指導する内容項目について、「計画的に取組み効果も感じられた」学校が46%、「計画的には取り組めなかったが、効果的だった」が18%で、計64%が「効果的だった」と回答している。校種別・学校規模別においてもそれほど差がない。「行っていない」学校が7%、「計画的に取り組めなかったし効果も感じられなかった」と回答した学校が9%ある。重点的指導は、学校の状況や社会的課題などを考慮して取り組むものであり、より効果的な重点的指導の工夫が求められる。

#### （５）2019年度の年間指導計画の見直しについて

表 12

今年度、どの程度年間指導計画を見直しましたか

	全体	校種別	
		小学校	中学校
見直さなかった	230 23%	132 21%	98 27%
1回見直した	582 58%	415 65%	167 47%
2回見直した	131 13%	75 12%	56 16%
3回以上見直した	55 6%	18 3%	37 10%



2019年度に年間指導計画を見直したかどうかについて、「見直さなかった」が小学校21%、中学校が27%、「1回見直した」が小学校65%、中学校が47%となっている。「2回見直した」は全体で13%、「3回以上見直した」は6%になっているが、いずれも中学校のほうが高くなっている。2018年度と比較すると、全体的にほとんど同じような傾向にあり、教科書の使用による年間指導計画の見直しは、教科書使用前と余り関係なく行われていると捉えられる。

### (6) 学校全体で道徳の授業に取り組む体制

表 13

今年度、学校全体で道徳の授業に取り組もうとする体制は機能しましたか

	全体	校種別	
		小学校	中学校
機能したと思う	296 30%	170 27%	126 35%
だいたい機能したと思う	519 52%	332 52%	187 52%
あまり機能しなかったと思う	129 13%	98 15%	31 9%
来年度見直したい	33 3%	26 4%	7 2%
体制ができていない	18 2%	11 2%	7 2%

2017年度では、「学校全体で取り組む体制ができているか」という問いに、95%が「できている」と回答していた。2018年度は「体制ができていない」学校は5%、2019年度は2%と、ほとんどの学校において、学校全体の体制の中で取り組まれている。なお、2018年度からは「体制が機能したか」という問いにしたところ、肯定的に「機能したと思う」「だいたい機能したと思う」と回答した学校が80%であった。2019年度は、「機能したと思う」「だいたい機能したと思う」と回答した学校が82%であり、ほとんど変わっていない。学校別でみると、中学校が、「機能したと思う」と回答した学校が13校増えている。

#### 4. 「特別の教科 道徳」の授業について

##### (1) 教科書による授業

表 14

教科書を使うようになって、道徳の授業はしやすくなったように思いますか

	全体	校種別	
		小学校	中学校
大変しやすくなったと思う	138 14%	97 15%	41 12%
だいぶんしやすくなったと思う	279 29%	197 31%	82 24%
まあまあしやすくなったと思う	259 27%	162 26%	97 28%
あまり変わらないと思う	224 23%	150 24%	74 21%
少ししにくくなったと思う	58 6%	16 3%	42 12%
だいぶんしにくくなったと思う	20 2%	7 1%	13 4%

「道徳の教科書を使うようになって、道徳の授業がしやすくなったか」という問いに、「大変しやすくなったと思う」が全体で14%、「だいぶんしやすくなったと思う」が29%、「まあまあしやすくなったと思う」が27%で、肯定的な回答が全体で70%、小学校は72%、中学校は64%である。小学校については、2018年度も同じ質問をしたが、ほとんど同じ回答であった。ただし、「大変しやすくなった」が3割増えている。

なお、「少ししにくくなったと思う」が、小学校6%に対し中学校は12%、「だいぶんしにくくなったと思う」が、小学校1%に対して中学校は4%になっている。

##### (2) 教科書の活用

表 15

教科書をどの程度活用しましたか

	回 答											
	そのまま活用した			少し変えた			ある程度変えた			だいぶん変えた		
	全体	小学校	中学校	全体	小学校	中学校	全体	小学校	中学校	全体	小学校	中学校
1. 年間指導計画の主題配列 (指導の順番が教科書通りであったかどうか)	303 31%	210 33%	93 26%	415 42%	290 45%	125 35%	158 16%	87 14%	71 20%	118 12%	52 8%	66 19%
2. 教材	618 62%	424 66%	194 55%	303 30%	175 27%	128 36%	60 6%	35 6%	25 7%	15 2%	6 1%	9 3%
3. ねらい	575 58%	374 58%	201 57%	342 34%	216 34%	126 35%	63 6%	41 6%	22 6%	16 2%	9 1%	7 2%
4. 授業の進め方	220 22%	147 23%	73 21%	508 51%	337 53%	171 48%	211 21%	123 19%	88 25%	57 6%	33 5%	24 7%
5. 重点的指導	388 39%	269 42%	119 33%	468 47%	293 46%	175 49%	112 11%	61 10%	51 14%	23 2%	12 2%	11 3%

「教科書をどの程度活用したか」の問いで、年間指導計画の主題配列に関わっては、「そのまま活用した」が小学校で33%、中学校で26%であった。「だいぶん変えた」が小学校で8%、中学校で19%であった。使用している教科書を発行している出版社が提供する主題配列をそのまま使うのではなく、7割の学校において、自校に合う形で修正されている。その傾向は中学校のほうが強い。

具体的な修正内容としては、「教材」に関して、小学校が 34%、中学校が 45%の学校において変えている。「少し変えた」学校がほとんどであり、小学校は全体の 27%、中学校は 36%であった。「ねらい」は、「変えた」学校が小学校 42%、中学校 43%となっており、「少し変えている」学校が多い。さらに「授業の進め方」においては、小学校、中学校ともに 8 割近くの学校において変えており、「少し変えた」が小学校 53%、中学校が 48%である。「ある程度変えた」学校も、小学校で 19%、中学校は 25%となっている。また、「重点的指導」においては、小学校で 58%、中学校で 67%の学校において変えている。「少し変えた」が全体で 47%、「ある程度変えた」が 11%になっている。指導の時期や重点的に指導する内容や実際の授業展開においては、児童生徒の状態や学級・学校の状況に応じて柔軟に対応していると捉えられる。

### (3) 授業について

表 16

貴校の道徳授業を全体的に見て、よくなってきていると感じますか

	回 答											
	かなりよくなっている			だいぶよくなっている			ほとんど変わっていない			よくなっているとは感じない		
	全体	小学校	中学校	全体	小学校	中学校	全体	小学校	中学校	全体	小学校	中学校
1. 低学年の道徳授業 (中学校では1年)	177 18%	105 17%	72 20%	648 65%	430 68%	218 61%	163 16%	100 16%	63 18%	6 1%	2 0%	4 1%
2. 中学年の道徳授業 (中学校では2年)	163 16%	99 16%	64 18%	657 66%	428 67%	229 64%	168 17%	106 17%	62 17%	7 1%	4 1%	3 1%
3. 高学年の道徳授業 (中学校では3年)	157 16%	91 14%	66 19%	642 65%	427 67%	215 60%	184 19%	114 18%	70 20%	11 1%	5 1%	6 2%
4. 事前の指導の工夫	84 9%	48 8%	36 10%	465 47%	296 47%	169 47%	434 44%	286 45%	148 42%	9 1%	5 1%	4 1%
5. 導入の工夫	145 15%	97 15%	48 13%	626 63%	398 63%	228 64%	219 22%	139 22%	80 22%	4 0%	2 0%	2 1%
6. 教材提示の工夫	158 16%	106 17%	52 15%	604 61%	391 62%	213 60%	229 23%	137 22%	92 26%	2 0%	2 0%	0 0%
7. 展開の工夫	159 16%	99 16%	60 17%	633 64%	408 64%	225 63%	197 20%	124 20%	73 20%	5 1%	5 1%	0 0%
8. 終末の工夫	127 13%	77 12%	50 14%	599 60%	382 60%	217 61%	262 26%	174 27%	88 25%	5 1%	3 1%	2 1%
9. 教材の多様性	97 10%	53 8%	44 12%	483 49%	316 50%	167 47%	382 38%	249 39%	133 37%	32 3%	18 3%	14 4%
10. 事後の指導の工夫	61 6%	37 6%	24 7%	486 49%	314 49%	172 49%	433 44%	280 44%	153 43%	11 1%	5 1%	6 2%
11. 板書の工夫	168 17%	121 19%	47 13%	555 56%	379 60%	176 49%	263 27%	134 21%	129 36%	8 1%	2 0%	6 2%
12. 子どもたちへの対応	165 17%	101 16%	64 18%	623 63%	411 65%	212 59%	203 20%	122 19%	81 23%	2 0%	2 0%	0 0%
13. 授業の評価	178 18%	98 16%	80 23%	644 65%	422 67%	222 62%	155 16%	106 17%	49 14%	12 1%	7 1%	5 1%

「貴校の道徳の授業がよくなってきていると感じるか」を、授業を充実させるポイントなど 13 項目にわたって尋ねた。すべてにおいて、「よくなっているとは感じない」という回答が、小学校、中学校ともに 1%前後であった。学校現場では、道徳の授業改善に向けて積極的に取り組まれている実態を読み取ることができる。

「ほとんど変わっていない」と感じている学校が多い項目は、まず、「事前の指導の工夫」と「事後の指導の工夫」で、ともに 44%であった。小学校、中学校ともほぼ同じ割合である。次が、「教材の多様性」で 38%。ここでも小学校、中学校ともほぼ同じ割合である。事前指導の工夫や事後指導の工夫、教材の多様性については、道徳の授業を充実させる大きなポイントであり、より意識的に取り組んでいく必要がある。

なお、これら以外の項目については、「ほとんど変わっていない」と回答した学校は少ないが、「かな

りよくなっている」と回答した学校は15～18%である。さらにこれらの項目についても、より効果的な指導ができるように取り組んでいく必要がある。また、小学校と、中学校を比較すると、「板書の工夫」については、「かなりよくなっている」と回答した学校では、中学校が小学校より6割低くなっている。中学校における道徳の授業改善の大きなポイントといえるかもしれない。

#### (4) 授業についての効果

表 17

次のような道徳の授業について、どの程度効果を感じていますか

	回 答								
	効果を感じている			まあまあ効果を感じる			あまり効果を感じない		
	全体	小学校	中学校	全体	小学校	中学校	全体	小学校	中学校
1. 登場人物への自我関与が中心の授業	250 26%	174 28%	76 22%	642 66%	408 65%	234 67%	83 9%	46 7%	37 11%
2. 問題解決的な授業	261 27%	166 26%	95 27%	616 63%	404 64%	212 61%	101 10%	59 9%	42 12%
3. 道徳的行為に関する体験的な授業	210 22%	127 21%	83 25%	584 62%	391 64%	193 58%	148 16%	91 15%	57 17%
4. 各教科との関連を重視した授業	76 8%	59 10%	17 6%	502 55%	374 61%	128 42%	341 37%	184 30%	157 52%
5. 学級活動との関連を重視した授業	181 19%	113 18%	68 20%	631 66%	424 68%	207 61%	150 16%	87 14%	63 19%
6. 学校行事との関連を重視した授業	225 23%	138 22%	87 25%	603 62%	394 63%	209 60%	143 15%	91 15%	52 15%
7. 総合的な学習の時間との関連を重視した授業	124 13%	82 13%	42 13%	539 58%	357 58%	182 56%	271 29%	172 28%	99 31%
8. 学級経営との関連を重視した授業	255 26%	187 30%	68 20%	606 62%	390 62%	216 63%	112 12%	55 9%	57 17%
9. 日常生活との関連を重視した授業	296 31%	205 33%	91 27%	598 62%	379 60%	219 64%	77 8%	45 7%	32 9%

道徳の授業について、様々な方法が提案されているが、その効果を9項目にわたって尋ねた。まず、「道徳教育にかかわる評価等の在り方に関する専門家会議」の報告に添付された「道徳科における質の高い多様な指導方法について」で提案された3つの学習について見てみると、「登場人物への自我関与が中心の授業」は、小学校で94%の学校が、中学校では89%の学校で「効果を感じる」「まあまあ効果を感じる」と回答している。「問題解決的な学習」は、小学校が90%、中学校が88%、「道徳的行為に関する体験的な授業」は、小学校が85%、中学校が83%の学校において何らかの効果を感じている。

また、学校全体で取り組む道徳教育の要の役割を果たすのに大切な、様々な教育活動や日常生活と関連を図る指導については、次のような結果になっている。最もよく効果を感じているのは、「日常生活との関連を重視した授業」である。小学校で93%、中学校で91%の学校で「効果を感じている」「まあまあ効果を感じている」と回答している。「学級経営との関連を重視した授業」でも、小学校で92%、中学校で83%であった。

逆に、これからの課題としてとらえられるのは「各教科との関連を重視した授業」である。「効果を感じている」「まあまあ効果を感じている」と回答した学校は、小学校で71%、中学校で48%である。教科担任制をとる中学校では難しい点が多くあるが、自分の担当する科目と連携することも考えられる。

「学級活動との関連を重視した授業」では、何らかの効果を感じている学校が、小学校で86%、中

学校で 81%、「学校行事との関連を重視した授業」は小学校が 84%、中学校が 88%、「総合的な学習の時間との関連を重視した授業」は、小学校 71%、中学校が 69%となっている。これらは小学校と中学校の差がほとんどない。特に「探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通してよりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力」を養うことを目標とする総合的な学習の時間との関連を重視した授業を一層重視する必要がある。

### (5) 道徳ノート、道徳ファイル、指導用のノート等の効果

表 18

道徳ノートは効果的でしたか

1. 道徳ノート	全体	校種別	
		小学校	中学校
大変効果的であった	152 15%	99 16%	53 15%
ある程度効果的であった	325 33%	238 38%	87 25%
少しは効果的であった	84 9%	50 8%	34 10%
改善を必要とする	42 4%	28 4%	14 4%
持たせていない	383 39%	219 35%	164 47%

表 19

道徳ファイルは効果的でしたか

2. 道徳ファイル	全体	校種別	
		小学校	中学校
大変効果的であった	126 13%	74 12%	52 15%
ある程度効果的であった	357 36%	229 36%	128 36%
少しは効果的であった	117 12%	64 10%	53 15%
改善を必要とする	28 3%	16 3%	12 3%
持たせていない	359 36%	252 40%	107 30%

道徳ノートと道徳ファイルの効果について尋ねた。道徳ノートは、持たせていないという回答が小学校 35%、中学校 47%であった。持たせれば、「大変効果的」「ある程度効果的」「少しは効果的」という回答が小学校 62% (2018 年度 67%)、中学校 50% (2018 年度 40%) となっている。道徳ノートを持たせて活用の仕方を工夫していくことが求められる。

道徳ファイルについても同様で、持たせていないという回答が小学校 40%、中学校 30%であった。持たせれば、「大変効果的」「ある程度効果的」「少しは効果的」という回答が小学校 58% (2018 年度 48%)、中学校 66% (51%) となっている。道徳ファイルの方が活用されやすい傾向がみられる。特に、中学校では、生徒の状況に応じて様々な資料を配布して授業をし、それらを綴じていくという方法がとられやすいのではないかと考えられる。

表 20

道徳教育の重点的指導用のノートかファイル (冊子も含む) は効果的でしたか

3. 重点的指導用のノートかファイル	全体	校種別	
		小学校	中学校
大変効果的であった	45 5%	27 4%	18 5%
ある程度効果的であった	148 15%	97 15%	51 15%
少しは効果的であった	61 6%	38 6%	23 7%
改善を必要とする	23 2%	15 2%	8 2%
持たせていない	703 72%	452 72%	251 72%



道徳教育の重点的指導用ノートやファイルの効果について尋ねた。まず、そのようなノートやファイルを「持たせていない」という回答が小中学校とも 72%であった。持たせているとする回答では、「大変効果的」「ある程度効果的」「少しは効果的」という回答が、26%であった（「持たせている」学校での評価を計算すると約 3 倍の 75%近くになる）。道徳教育の重点的指導用のノートやファイルがあれば、より自覚的により集中的に道徳学習に取り組むことができる。今後の課題といえよう。

## （6）現在使用している教科書についての意見

表 21

現在使用している教科書について、どのような意見をお持ちでしょうか

	全体	校種別	
		小学校	中学校
このままでよい	628 63%	423 66%	205 58%
少し改善してほしい	286 29%	179 28%	107 30%
かなり改善してほしい	63 6%	28 4%	35 10%
大幅に改善してほしい	16 2%	8 1%	8 2%

現在使用している教科書についての意見を尋ねた。「このままでよい」という回答は、小学校 66%、中学校 58%で、6 割である。「少し改善してほしい」は 3 割で、残り 1 割（小学校では 5%）が「かなり改善」「大幅改善」を求めている。9 割がおおむね満足しているという結果である。

なお、改善してほしい点について自由記述で尋ねている。詳細は、次に発表する 自由記述の分析で述べる。

## （7）「特別の教科 道徳」の評価について

表 22

「特別の教科 道徳」の評価について、今年度どのようにしましたか

	全体	校種別		学校規模		地域別					
		小学校	中学校	200人 以下	701人 以上	北海道・ 東北	関東・ 甲信越	北陸・ 中部	近畿	中国・ 四国	九州・ 沖縄
各学期ごとに行った	426 43%	309 48%	117 33%	99 42%	54 43%	58 31%	167 59%	38 34%	73 47%	48 32%	48 39%
年度末にまとめて行った	496 50%	277 43%	219 61%	118 50%	60 47%	109 57%	105 37%	65 58%	73 47%	88 59%	66 54%
その他	75 8%	54 8%	21 6%	18 8%	13 10%	23 12%	13 5%	10 9%	9 6%	13 9%	8 7%

「特別の教科 道徳」の評価の時期について尋ねた。「各学期ごと」と「年度末」がほぼ半々で、「その他」の回答も 1 割弱であった。2018 年度の調査で、小学校のみ回答を得たが、今回とほぼ同じ結果であった。

校種別では、小学校は「各学期ごと」が多く(48%)、中学校は「年度末」が多い(61%)。学校規模では、200 人以下と 700 人以上で見てもあまり差はない。どちらもやや「年度末」が多い。

地域別では、「各学期ごと」が多いのは、関東・甲信越と近畿で 5～6 割である。「年度末」が多いの

は、北海道・東北や北陸・中部、中国・四国、九州・沖縄で6割前後である。

各教科の評価は学期ごとに行われていることから「特別の教科 道徳」も学期ごとに行うようにすることが求められる。

### (8) 学校全体での道徳授業研修

表 23

今年度、学校全体で道徳授業の研修をどの程度行いましたか

	全体	校種別		学校規模	
		小学校	中学校	200人 以下	701人 以上
行っていない	174 18%	137 22%	37 10%	48 21%	30 24%
1～3回行った	683 69%	416 65%	267 75%	149 64%	76 60%
4～6回行った	73 7%	43 7%	30 8%	16 7%	15 12%
7回以上	63 6%	41 6%	22 6%	21 9%	6 5%

学校全体での研修を「行っていない」のは、小学校が中学校の2.2倍あるが、全体では18%である。これは、2018年度は小学校10%、中学校16%であったものが、大きく逆転している。最も多いのは「1～3回行った」で小学校66%、中学校75%で学期に1回あるいは夏休みに研修を行うのが一般的かと推測される。2018年度、「4～6回行った」は小学校、中学校ともに14%で、2019年度は半減している。

### (9) 道徳授業についての話し合い

表 24

各学年や学年段階で、道徳授業の話し合いはどの程度行われていますか

	全体	校種別		学校規模		地域別					
		小学校	中学校	200人 以下	701人 以上	北海道・ 東北	関東・ 甲信越	北陸・ 中部	近畿	中国・ 四国	九州・ 沖縄
よく行われている	161 16%	72 11%	89 25%	35 15%	19 15%	30 16%	43 15%	11 10%	34 22%	25 17%	20 16%
ときどき行われている	530 53%	337 53%	193 54%	106 46%	69 54%	89 47%	156 55%	59 53%	89 57%	75 50%	68 56%
あまり行われていない	219 22%	163 26%	56 16%	59 25%	28 22%	46 24%	62 22%	30 27%	26 17%	32 22%	26 21%
ほとんど行われていない	83 8%	64 10%	19 5%	33 14%	11 9%	24 13%	23 8%	11 10%	6 4%	17 11%	8 7%

2019年度の道徳の話し合いは、「よく行われている」「ときどき行われている」の合計が69%（2018年度は74%、2017年度は61%）で、5割下がっている。しかし、中学校は79%（2018年度は74%）でさらに5割上昇している。近畿79%、九州・沖縄71%、関東・甲信越70%と地域別では近畿が高い。道徳の授業について、職員室や学年会議で話題になっていることがうかがえるが、「ほとんど行われていない」と回答した学校が、小学校で10%、中学校で5%ある。



## 5. 道徳教育に関する先生方の意識

### (1) 道徳教育に対する先生方の意識

表 25

回答者の金部する学校における教員の実態についての意識

	回 答											
	そう思う			だいたいそう思う			あまり思わない			ほとんど思わない		
	全体	小学校	中学校	全体	小学校	中学校	全体	小学校	中学校	全体	小学校	中学校
1. 道徳教育の大切さについて理解している	479 48%	323 50%	156 44%	481 48%	296 46%	185 52%	35 4%	18 3%	17 5%	4 0%	4 1%	0 0%
2. 道徳教育の目標について理解している	296 30%	200 31%	96 27%	598 60%	386 60%	212 59%	96 10%	48 8%	48 13%	9 1%	6 1%	3 1%
3. 「特別の教科 道徳」の大切さについて理解している	398 40%	273 43%	125 35%	536 54%	329 52%	207 58%	56 6%	32 5%	24 7%	8 1%	5 1%	3 1%
4. 「特別の教科 道徳」の目標について理解している	252 25%	180 28%	72 20%	629 63%	399 62%	230 64%	109 11%	55 9%	54 15%	8 1%	5 1%	3 1%
5. 「特別の教科 道徳」の指導方法について理解している	202 20%	132 21%	70 20%	653 65%	420 66%	233 65%	134 13%	82 13%	52 15%	10 1%	6 1%	4 1%
6. 「特別の教科 道徳」の評価について理解している	190 19%	122 19%	68 19%	624 63%	410 64%	214 60%	167 17%	99 16%	68 19%	18 2%	9 1%	9 3%
7. 道徳教育に熱心な教師が多い	171 17%	109 17%	62 17%	561 56%	376 59%	185 52%	248 25%	142 22%	106 30%	18 2%	12 2%	6 2%
8. 道徳の授業に熱心な教師が多い	163 16%	103 16%	60 17%	543 55%	368 58%	175 49%	273 27%	273 27%	116 32%	18 2%	11 2%	7 2%
9. 道徳教育は自分自身のことであり、自分自身のことであると思っ ている教師が多い	121 12%	81 13%	40 11%	515 52%	341 54%	174 49%	330 33%	195 31%	135 38%	24 2%	15 2%	9 3%
10. 道徳の授業を楽しんでいる教師が多い	71 7%	44 7%	27 8%	404 41%	286 45%	118 33%	482 49%	285 45%	197 55%	36 4%	21 3%	15 4%

道徳教育、教育の目標、教科、教科の目標、指導法については、理解しているが9割である。「評価についての理解」は、「あまり思わない」が17%で、2018年度25%であったのが8割高くなっており、理解が進んでいると捉えられる。しかし、「道徳教育や授業に熱心な教師が多い」については、「あまり思わない」「ほとんど思わない」が27%（2018年度28%）、「授業を楽しんでいる教師が多い」については、5割が思わないと回答している。2018年度と同様の結果であった。あまり身構えず、児童生徒の意見を聞くことを楽しみながらやってみることを今年も提案したい。

「道徳教育は自分自身のことであると思っ  
ている教師が多い」に対し、64%が肯定的に回答している(2018年度63%)。道徳教育は、子どもの課題であると同時に大人の課題でもある。自分自身の道徳教育でもあるという認識で児童生徒とともに取り組んでいく心構えが求められる。

### (2) 教師から見た家庭や地域の人々への意識

表 26

先生から見て、この1年を振り返って家庭や地域の様子はいかがですか

	回 答											
	そう思う			だいたいそう思う			あまり思わない			ほとんど思わない		
	全体	小学校	中学校	全体	小学校	中学校	全体	小学校	中学校	全体	小学校	中学校
1. 子どもの道徳教育について熱心な保護者が多くなった	22 2%	17 3%	5 1%	220 22%	169 27%	51 14%	628 63%	398 63%	230 65%	122 12%	53 8%	69 19%
2. 子どもの道徳教育について熱心な地域の人たちが多くなった	20 2%	15 2%	5 1%	193 19%	157 25%	36 10%	630 63%	397 62%	233 65%	151 15%	68 11%	83 23%
3. 地域の人たちの協力が得られるようになった	46 5%	37 6%	9 3%	248 25%	198 31%	50 14%	546 55%	336 53%	210 59%	151 15%	64 10%	87 24%
4. 保護者の協力が得られるようになった	33 3%	27 4%	6 2%	297 30%	226 36%	71 20%	528 53%	328 52%	200 56%	131 13%	53 8%	78 22%

教師から見た家庭や地域の人々の意識について尋ねた結果を見ると、「子どもの道徳教育に熱心な保護者が多い」では「そう思わない」が小学校71%（2018年度56%、2017年度53%）、中学校は84%

(2018年度 72%、2017年度 61%) で、大幅に増えていっている。家庭では、いろいろな考えを持つ保護者に育てられており、それぞれの家庭において何らかの道徳教育が行われている。それらを大切にしながら、共に生きるという視点から学校で学ぶ道徳教育と関連を図っていくことが求められる。

また、「地域の人たちの協力が得られている」や「保護者の協力が得られている」については、肯定的に答えた回答者は、3割である(2018年度は5～6割)。2018年度と比べて大幅に減少している要因として、学校側の要求や期待が高まっていることも挙げられるのではないかと。学校の取り組みを保護者や地域の人々にわかるように広報活動を工夫したり、保護者参観などに道徳のノートを見せて心を豊かに育てている様子を伝えたりすることなどを工夫して、保護者や地域の人々が自発的に協力したいと思える状況を創っていくことが求められるといえよう。

### (3) 「特別の教科 道徳」になったことについての意識

表 27

「特別の教科 道徳」になったことについて、どう思いますか

	全体	校種別		地域の環境	
		小学校	中学校	農山漁村	近郊・新興住宅
よかったと思う	316 32%	215 34%	101 29%	126 31%	149 30%
まあまあよかったと思う	440 45%	278 44%	162 46%	185 45%	228 46%
あまりよかったとは思わない	180 18%	111 18%	69 20%	78 19%	95 19%
よかったとは思わない	46 5%	24 4%	22 6%	20 5%	23 5%

道徳が教科化になったことについて尋ねた。「よかった」「まあまあよかった」という肯定的回答が、8割弱であった。「あまりよかったとは思わない」や「よかったとは思わない」は、23%である。ほかの授業は苦手でも、自分の考えを聞いてもらえる道徳の授業は大好きという児童生徒が存外に多い。子どもたちの言動が変わってくると手ごたえがあり、毎週授業をすることへの負担感が、期待感に変わるのではないだろうか。なお、この問いへの自由記述については、次の発表で詳しく説明する。

#### (4) 教師の道徳教育に対する意識

表 28

道徳教育に対する先生の意識

	回 答									
	そう思う					そう思わない				
	全体	校長	副校長 (教頭)	推進教師 (道徳主任)	教務主任 研究主任	全体	校長	副校長 (教頭)	推進教師 (道徳主任)	教務主任 研究主任
1. 道徳の授業を積み重ねていけば、子どもたちの道徳性は高められる	946 96%	97 92%	151 96%	637 96%	61 98%	41 4%	9 9%	6 4%	25 4%	1 2%
2. 教師は、自分の生き方を子どもたちにもっと話すべきだ	910 92%	105 97%	143 91%	605 91%	57 92%	80 8%	3 3%	15 10%	57 9%	5 8%
3. 道徳教育は、他律的な道徳性の育成が根幹にあって、自律的な道徳性がはぐくまれる	901 92%	98 94%	144 92%	603 92%	56 90%	76 8%	6 6%	13 8%	51 8%	6 10%
4. どのような子どもたちも、学校に来ればしっかりと成長できる	854 87%	93 86%	138 88%	571 87%	52 84%	132 13%	15 14%	19 12%	88 13%	10 16%
5. 学力の育成は、道徳教育を充実させることで高められる	881 90%	95 89%	139 89%	590 90%	57 92%	102 10%	12 11%	17 11%	68 10%	5 8%
6. 体力の育成は、道徳教育を充実させることで高められる	700 71%	80 74%	117 75%	460 70%	43 69%	286 29%	28 26%	39 25%	200 30%	19 31%
7. いじめなどの子どもたちの問題行動は、道徳教育を充実させることである程度改善される	962 97%	102 94%	155 98%	645 98%	60 97%	27 3%	6 6%	3 2%	16 2%	2 3%
8. 道徳教育を充実させることで家庭との連携が深まる	842 85%	99 93%	136 87%	556 84%	51 82%	145 15%	8 8%	21 13%	105 16%	11 18%
9. 道徳教育を充実させることで地域との連携が深まる	802 81%	100 94%	129 82%	523 79%	50 81%	184 19%	7 7%	28 18%	137 21%	12 19%
10. 「特別の教科 道徳」の授業時間を40時間くらいにすると、もっと多様な授業ができる	391 40%	44 41%	72 46%	251 38%	24 39%	594 60%	64 59%	85 54%	407 62%	38 61%
11. 教員養成において、もっと道徳教育の単位をとれるようにし充実を図るべきだ	773 79%	79 75%	117 75%	529 80%	48 77%	209 21%	27 26%	39 25%	129 20%	14 23%

道徳教育に関する意識は、2018年度、2017年度に比べ、どの項目も大幅に上昇した。特に高いのが「道徳の授業を積み重ねていけば、子どもたちの道徳性は高められる」(96%、2018年度91%)や「いじめなどの子どもたちの問題行動は、道徳教育を充実させることである程度改善される」(97%、2018年度85%)である。ほかにも多くの項目が9割を超えている。回答者に注目しても、校長、教頭、教員との回答に、ほとんど差がみられない。道徳と体力との関連については、3割(2018年度5割)が「そう思わない」と回答しているが、健康意識の高まりで、体力や健康の維持はよりよく生きることと関連づけられつつあるのかもしれない。道徳の授業を年間40時間するというのは否定的な回答が6割(2018年度8割)で、これも、2時間続きや他教科と関連づければ40時間は軽く超えるという意識がうまれているのではないだろうか。教頭(副校長)の肯定的な回答が高いので、将来校長になったときに道徳の時間数についてもっと柔軟に対応できていくのではないだろうか。教員養成においても充実すべきだと考える回答が2018年度は6割であったのに、2019年度は8割と大きく伸びた。特に推進教師がそのように考えている傾向がある。道徳教育に関して専門性の高い教員養成が求められている。

## (5) 道徳教育に対する要望

表 29

道徳教育に対する先生の要望

	回 答									
	そう思う					そう思わない				
	全体	校長	副校長 (教頭)	推進教師 (道徳主任)	教務主任 研究主任	全体	校長	副校長 (教頭)	推進教師 (道徳主任)	教務主任 研究主任
1. 道徳教育を充実させるための特別予算がほしい	465 47%	62 57%	78 50%	302 46%	23 37%	519 53%	47 43%	78 50%	355 54%	39 63%
2. 道徳教育の指定校を多くしてほしい	196 20%	20 18%	29 19%	142 21%	5 8%	797 80%	89 82%	128 82%	523 79%	57 92%
3. 道徳教育の専門教師を加配してほしい	535 54%	50 46%	81 52%	375 56%	29 47%	458 46%	59 54%	76 48%	290 44%	33 53%
4. 道徳教育研修の機会を多くしてほしい	673 68%	64 59%	99 63%	474 71%	36 58%	319 32%	45 41%	58 37%	190 29%	26 42%
5. 文部科学省は道徳教育の進め方についてもう少し詳しい資料を発行してほしい	665 67%	54 50%	89 57%	481 72%	41 66%	329 33%	55 51%	68 43%	185 28%	21 34%
6. 文部科学省は「特別の教科 道徳」の授業の進め方についてもう少し詳しい資料を発行してほしい	696 70%	59 55%	98 62%	496 75%	43 69%	296 30%	49 45%	59 38%	169 25%	19 31%

これからの道徳教育に対しては、道徳教育や「特別の教科 道徳」の授業の進め方についての資料が欲しいという要望が70%（2018年度79%）と高い。「研修の機会が欲しい」は、68%（2018年度79%）、予算が欲しいは、47%（2018年度62%）で、予算や資料等への要望より研修がしたいという傾向にある。これらについては、自由記述の内容分析で詳細を見ていくこととする。

## 6. 教師の道徳教育に対する意識の傾向性（因子分析による検討）

教師の道徳教育に対する意識(表 28)について、因子分析による検討を行った。回答している教員が11項目の意見についてどう思うか、主因子法による因子分析を行った。3因子構造が妥当であると考えられ、主因子法・Promax 回転による因子分析を行った。明確な3つの因子が得られた。累積寄与率は、48.92であった。

取り出した3因子について、次のように解釈された。

第1因子は、「道徳教育を充実させれば、学校教育を高めたり育むことができる」「道徳教育を積み重ねていけば、道徳性が高められる」と考えているため、「道徳教育有効性と道徳性向上因子」と名付けた。

第2因子は、「道徳教育を充実させることで、地域との連携が深まる。家庭との連携が深まる」と考えていることから、「連携因子」とした。

第3因子は、「教員養成において、もっと道徳教育の単位をとれるようにして充実を図るべきだ」「『特別の教科 道徳』の授業時数を40時間くらいにすると、もっと多様な授業が工夫できる」と考えていることから、「制度化・授業充実因子」とした。

これら3つの因子が、教師の道徳教育に対する意識の傾向性の背景にあることが明らかになった。

表 30

教員意識尺度の因子分析結果 (Promax 回転後の因子パターン)

	因子		
	I	II	III
5. 学力の育成は、道德教育を充実させることで高められる	.708	.078	-.014
4. どのような子どもたちも、学校に来ればしっかりと成長できる	.624	-.065	.015
1. 道德の授業を積み重ねていけば、子どもたちの道德性は高められる	.619	.09	-.051
3. 道德教育は、他律的な道德性の育成が根幹にあって自立的な道德性のはぐくまれる	.612	-.033	-.009
6. 体力の育成は、道德教育を充実させることで高められる	.505	.181	.075
2. 教師は、自分の生き方を子どもたちにもっと話すべきだ	.499	-.111	.098
7. いじめなどの子どもたちの問題行動は、道德教育を充実させることである程度改善される	.418	.288	-.039
8. 道德教育を充実させることで、家庭との連携が深まる	-.035	.967	.006
9. 道德教育を充実させることで、地域との連携が深まる	-.02	.923	.014
10. 「特別の教科道德」の授業時数を 40 時間くらいにすると、もっと多様な授業が工夫できる	-.066	.071	.715
11. 教員養成において、もっと道德教育の単位をとれるようにし充実を図るべきだ	.144	-.06	.526

因子抽出法: 主因子法

回転法: Kaiser の正規化を伴うプロマックス法 a

a 5 回の反復で回転が収束しました。